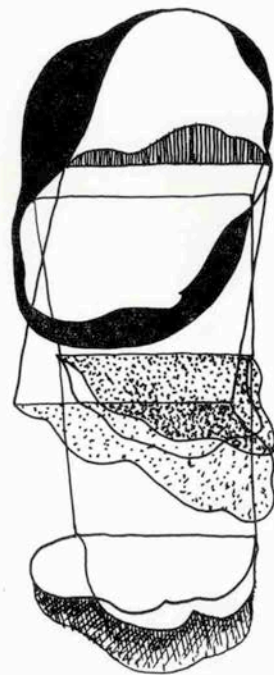


題三想隨



Toku.T



花時計のような

和田 英子

〈詩人〉



花時計の針がぎりっと動く

しなやかな髪をもち

しろい頬をもつ

わかい娘のような

花時計の花たちよ

花時計の花のような

四月の花のような

わかい娘たちよ

あなたが歩くと

花時計の針がぎりっと動く

ぎりっと針が動くと

あなたの踵がのびあがる

風にはなびらがそよぐように
人の視線を全身にあびて

ひととき

あなたの背中に流れる

ピアノ線のような

戦慄

四月に入ると、学校を終えた若い人達で、街やオフィスはみちみちている。特に若い彼女たちは皆、申し合せたようにくったくがなく、他人のちよつとした仕草に笑いこらげるようすは、物価高や何やらでいがらっぽくなっている大人達を、気分的になごませ、新鮮な気持をよびおこさせて、その影響力は、彼女たちが意識している以上に、大きな力をもっているようだ。

よくしゃべり、よく遊び、よく食べる彼女らを見てみると、正

に、花時計がぎりっと動いているな、と思わずにいられない。
そして、わたしにもそんな時代があったかと、遠い日々を問い返してみたりする。

戦後の、衣食住すべて不自由だったころ、わたしは神戸を離れて、瀬戸内の小さな町にいた。町の文化活動に熱心な青年が、地方に疎開している学者、文化人を動員して、いろいろな講座を開いてい、美学者の中井正一氏が、女性史を講義されたのも、その時であった。入江に近い酒倉で、難かしい内容を理解しようと、わたしは懸命であった。

「先生は戦争中どうなさっていたのだらう」

中折帽子をまぶかにかぶり、トレンチコートのえりを立てて、春寒の細い露路を、さつと歩かれた

姿と、酒倉にうつった長いかけを見て、わたしは、痛ましさと恐れを、氏に感じた。講義の内容はすっかり忘れてしまったが、入江の水面や、氏の後姿が、今でもはつきりうかび上る。

その後、氏は国会図書館の副館長をなさっておられたが、まもなく急に歿くなられた。

あの頃、わたしもくったくなくのびのびしていただろうか。一シーズンを、一足の革靴、一枚の上着ですごしたわたしの二十歳は、はなやいでいただろうか。当事者のわたしには答えは出ない。

ただ、わたしの身体の中で、その季節にしか咲かない花時計が音をたててざりっと動いていたことは、たしかなことであったようである。

さよなら神戸

（未成年用・18歳以上お断り）

榎並 正雄

〈アトリエ「ワンウェイ」プロデューサー〉



さんちかタウンが「さよならがいえない街」をメイン・コピーに改装キャンペーンを張ってから、

もう一年以上経つ。だが、「さよならがいえない街」神戸に住みながら「さよならがいえるボク」を幻視するボクは、神戸っ子のはみだし野郎なんだろうか。

「ぼくの神戸」に出会うためにはいくつかの「神戸」とさよならしなければならぬのだろうか。

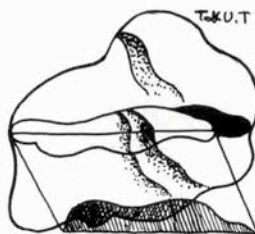
さよなら神戸

こっそり終了台を教えてくれたエーワンの和ちゃんにさようならとうとうおまから女になっちゃった、ニュージャパンのボタンちゃんにさようならさよなら神戸バンビの二階テールに刻まれた「愛と革命」にさようなら

ボクとヒロミの髪に虚構のリボンを結んでいった北野町の五月の風にさようならさよなら神戸

いつもTシャツの下にブラをつけていたご清潔な神戸センスのゆみ子ちゃんにさようなら

ニイー・ニイーの化粧室のドアで消えかかっている灘高全斗委に



さようなら さよなら神戸

三波春夫後援会員、長田地区婦人会のおばさんにさようなら

踊る阿呆に踊らされる阿呆、あとのまつりの神戸まつりにさようなら

さよなら神戸

そして、なによりも

さよならにさよなら

ボクは、あらゆる「神戸」にさよならするという精神的な作業を通して、更に深いところで、いつか神戸と神戸っ子に出会いたいと思う。ボクが神戸にこだわり続ける理由はこの出会いの希求でしかない。

神戸っ子は、サンチカのおうむのように、いつも首をたてにしか振ることを知らず、翔べない、叫べない鳥でしかないのだろうか。

さあ、みんな、ニコニコ・パッジは捨てましょう。そして、心に怒りとさよならのパッジを付けましょう。だって、神戸のシンボル・マークはいかりでしょう。

だが、「さよなら神戸」といいながら、赤い靴をきちんとそろえてメリケン波止場から初冬の海へ飛び込んでいったボクの少女アイは、あこがれの地サンフランシスコへ泳ぎ着くことができたのだろうか。

良平叔父の

思い出 その2

飯塚 祇之

〈富士重工工業KKデザイナー〉



画家・小磯良平叔父と私の母は従姉弟に当る。私が四、五歳のころだった。父の仕事の関係で、朝鮮（今の韓国）仁川に赴任していたある夏、当時上野の美術学校の画学生であった良平叔父が、私の母を頼って、渡韓してきた。

今も私の家には、仁川の田舎道を画いた油彩のスケッチがある。その裏面にはあまり上手ともいえない字で『なまけもの』と書きなぐってあるのを見るたびにあの眼の小ささ、少々小肥りのした叔父の笑顔が浮かんでくるのである。

それからの私は、群馬の祖母のもと（父の故郷）で、祖母がなくなる小学校五年の五月までをわんぱくで過ごし、中学一年の一学期終了までを再び関西の芦屋で過ごしたが、その間一度も良平叔父とは逢う機会がなかった。

私が兵隊生活に入って間もなくのある日のこと。兵隊は皆それぞれに手箱といって本箱のようなものを持っている。

初年兵のわれわれは、上司の命令で、その手箱の奥に、離れた故郷の父母や妻子の写真を貼って

（写真のない者は名前を書いて貼る）毎日を元気に無事に御国のために御奉公していることを報告するよう教えられた。

群馬の片田舎から満州チチハルの航空隊に入った者は少なく、写真などあろうはずもなく、下手くそな字で何げなく母の名を書いて貼った。

満州という気候風土の違いから『脚気』という病気に見舞われた私は、心ある軍医の計らいで、内地へ帰って療養する許可をもらい一時母の実家（当時は西宮の今津に転居していた）で休養を摂ることにした、そのある日である。

やはり美術学校のこれは図案科を出た叔父（母の弟）のアトリエに上って、あっちの戸棚、こっちの本棚と、何とはなしに珍しいものがあつたら貰っていいこうと、さがしているうちに、本の間から半分に折られた一枚の素描が出て来た。

『神のみちびき』なんていうのはこんな時をいうのか、開いて見ると、良平叔父の画いた母の肖像画早速に所望したが、叔父曰く『良ちゃんの画いたのはそれ一枚しかないから……』と。

致し方なく、ほしい一心で夢中で半日位もかかって写し取ることができた。

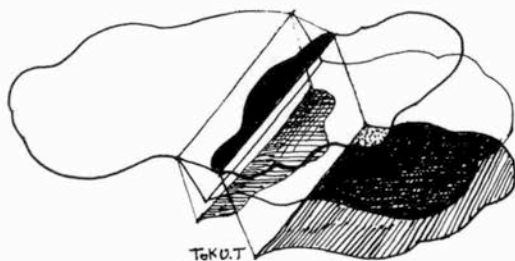
後に写真屋で複写し、その写真

に向って毎日、『元氣』なることを報告していたのは、いうまでもない。

ただし、かえすがえすも残念でたまらないのは、その後、写し取った絵は、軍隊で処分され、空襲では原画も燃失してしまったことである。

それにしても、私にとって思い出の糧として今でも残っているのは、只一枚の複写の写真が私の家の仏壇で、息子や孫の成長を見守ってくれていることである。

（つづく）



カット／田中徳喜

〈行動美術〉

愛犬家グループ『ジャパン・ケ
ンネル・クラブ』（JKC）はま
たの名を、全日本警備保障協会、
全日本畜犬登録協会という。

兵庫支部は昭和二十六年創立
され、今年で満二十一年を迎える
支部長も三代目、その間の展覧会
も三十回以上を数える。

また全国に先駆けて、七、八年

★ある集いその足あと★



ジャパンケンネルクラブ兵庫県支部

天野 義一（JKC兵庫支部支部長）

前から『愛犬のおしゃれコンク
ール』を開催、好評を博している。
これは、それぞれ、愛犬に衣裳
を着せ、その犬に一番よく似合っ
た衣裳をつけたものが、チャンピ
オンに選ばれる。

そのアイデアにあふれた装い
は、写真の他にもウエディング・
ドレスの花嫁、大黒さま、浦島太



郎、大国主の命、闘牛士、チャイ
ナ娘、二丁けんじゅうのカウボー
イ……と多士いや多犬済々。
もちろん着こなすにはかなりの
訓練が必要。キビシイしつけを施
した上でわが子の晴れ姿を競うの
である。

毎年十二月には、『このおしゃれ
コンクール』出場犬を連れて、恵
まれない子等の施設慰問をして、
喜ばれている。

この催しは今、東京でも開かれ
ているが、兵庫県にはかなわない
とシャッポをぬぐほどの定評があ
る。

このほか、再度山大龍寺内にJKC
として愛犬のお墓をつくり、毎年
彼岸には供養を欠かさない。

現在当支部は犬種にして約五、
六〇種類、約二百余名の会員数を
かぞえ、全国七〇〇支部中有数の
大支部である。

会員たちは野良犬をつくらずい
犬を育てるよう努めながら、愛
犬を通じて親交を重ね、ペットの
いる家庭を楽しんでいる。

JKC兵庫支部

神戸市生田区北長狭通二丁目 天野義一 方

△写真は犬のおしゃれコンクールより▽

美しい時計をつくり続けてきました
スイスで1791年から……

No9081 ステンレス鋼 35,000円



ジラル・ペルゴ

永久に正確な時を刻むジラル・ペルゴ。香り高い芸術の気品をしのばせるデザイン。世界に誇るスイス時計の逸品です。

GIRARD-PERREGAUX

特約店
美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL.331-1798
三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL.331-8798

□れんさい史話 1

兵庫の諸問屋と

北風家

宮本又次

△関西学院大学教授▽

兵庫は三方（さんほう）といつて、岡方・北浜・南浜に分れていた。北浜、南浜は海岸ぞいで、岡方は両浜の背後地で、海に沿わない。岡方二十七町、北浜十一町、南浜六町、合計四十四町、明和六年に兵庫が尼崎藩から幕府の直轄地にかわったとき、佐比江新地の一カ町が岡方に加わって四十五町になった。北浜には島上、匠、鍛冶屋、松屋、宮前、宮内、北宮内、川崎、西出、東出、東川崎があり、南浜には、和田崎、今出在家、出在家、新在家、関屋、船大工があった。岡方には湊、江川、木戸木場、小物屋、北仲、南仲、魚棚、塩屋、逆瀬川、東柳原、西柳原その他があり、「算所」という一劃のみは町といわず、村といった。

元禄頃すでに西出町、東出町はあるが、川崎町、東川崎町はあとで出来たものである。市街の東は、海に面し、西の端は西柳原惣門、南の端は和田明神、北の端は湊町惣門で限られていた。海岸に沿って細長い町があり、南北は広く東西は狭かった。ケンベルは元禄年間ここを通って、「市街は海岸に沿うて半円形をなし、その大きさはほぼ長崎に同じ」とのべている。

二

戦国時代伊丹城主の荒木村重が花隈城をきずき、信長

にうたれたが、池田信輝は花隈城をこわして兵庫に築城した。池田氏の城跡は築島船入江の西南にあたる切戸町のあたりにあって、堀を四方にめぐらしていたが、尼崎藩領時代には、ここを陣屋といい、奉行が駐在していた。幕府の天領になってからは、大阪町奉行所から派遣された役人が在任し、勤番所と称した。町の真中を西国街道がつらぬき、湊町惣門と西柳原惣門とが、その出入口であった。元禄頃にはそこに番所が置かれていたが、のちなくなった。

大阪へくる廻船はおおむね兵庫に寄港したが、大阪の川口の水深が浅いので、兵庫で小船に積みかえるものが多くなったし、また兵庫で上陸もした、諸問屋株、穀物問屋株、干鰯仲買株はことに重要で、これを三仲間と称した。諸問屋株は安永元年の免許（一二一株）穀物仲買株は明和八年（一二五株）干鰯仲買株は安永元年（七〇株）に免許された。

三

寛永年間に兵庫の北風彦太郎が加賀藩の藩米をはじめて大阪に運んだことは有名であるが、やがて西廻航路の発展とともに、兵庫に陸揚げされるものがまして来た。

西国大名は参勤交代の往還に、兵庫にて宿泊もし、浜本



北風 正造

陣がおかれたりする。兵庫は大阪の蔵米に対し、納屋米および肥料の集散地にのしあがり、ときに大阪の商権をおびやかすようにもなる。大阪行の荷物が兵庫にはいつて水揚げされ、途中売されることも多くなる。兵庫は船着場として海上の貨客を大切にした。商家の張り紙も「家内安全」とかず、「客船安全」とかいていた。客船が安全であれば兵庫は栄え、兵庫商人の家内は必然的に安全だ、という考え方であった。

廻船問屋は西出町に多く、主として北前船の廻船問屋で、これに対し東出町は菱垣、樽両廻船の中心地であった。船大工町にも地方船（芸州大島などの船）の取扱をなす廻船問屋があった。廻船問屋はお客を大切にし、長暖簾は法度、建珠盤（たてそろばん）も用いない。

兵庫の廻船問屋の中でもっとも古いものに北風荘右衛門がいた。鍛冶屋町に住み、また淡路屋善右門（淡路）は菱垣、樽廻船を取扱い、紙店、鉄店みなこれを利用した。梶忠（梶屋忠兵衛）は兵庫台場の普請で、金を儲け、船持になった。

四

北風家はもと白藤氏、新田義貞に従い、足利尊氏の軍を兵庫にてせめ、北風に乘じて敵船を焼き、大勝を得たので、義貞は北風の烈々たるがごとしと軍免状を与え、以来白藤の姓を喜多風とあらため、のち北風と称した。

一族みな繁栄し、兵庫に定住して、七家に分れていた。先にのべたように寛永年間をはじめ、加賀藩が北国米を大阪に廻送したとき淀屋个庵の依頼で、北風彦太郎がその航海を支配したという。鴻池村の鴻池新右衛門のた

のみで、その酒を江戸へ手船でおくったりする。以来北風家は兵庫諸問屋中の随一となり、兵庫十二浜の浜庫の過半をその手におさめる。同族北風荘右衛門貞和も北前船問屋として米穀や肥料をあつかい、蝦夷地の御用もした。養子北風正造は維新時に大活躍をなし、明治となってもなお栄えていたが、明治十七年頃に没落してしまふ。

五

兵庫と蝦夷地、松前とは西廻り航路によって深く結ばれていた。米は津軽、出羽、越後、越中よりはこび、出羽、越後、大阪より酒をはこび、敦賀、津軽より縄漣を、瀬戸内海各地からは塩を、大阪よりは木綿をつんだ、そして各地に松前、北陸の物産をもたらしした。松前からは大阪、兵庫への魚粕の移出をもし、大阪靱商人とともに兵庫干鰯仲買人の活躍となる。

安政五年幕府は江戸に箱館産物会所を設置し、大阪に取締り会所、兵庫にその出張所をおいた。北風荘右衛門はその用達兼会所付であった。また各藩が大阪の蔵屋敷へ送った蔵米の残米も多く兵庫にはいった。その上農家からの売米としての納屋米は主として兵庫にはいる。兵庫は、大阪の蔵米に対して、すぐれて納屋米市場となる。北風家は北国からの廻船を大部分荷うけし、北前船の米は八分まで、兵庫でさばかれてしまふ。兵庫七宮神社の祭礼は北前船入津の季節に行なわれた。

北前船は春秋の二季にくる。春には米を積んではいらる。そして売上金で、上方の物産を買いもとめ、引返して越後、出羽、松前にて、積荷を売り、秋には鮮粕を積載して、再び上方にきた。帰航の期がおくれて、冬になると船を大阪の木津川の川口にかこつて陸路一たん帰郷し、翌年立春には、陸路大阪に出て、荷物を仕入れて、船につみ、北国に向い、その売上金で米を買い入れ、またまた上方に向つて廻漕する。北前船は兵庫、大阪では砂糖と塩とを多く買い入れたという。兵庫はもっぱら北風荘右衛門の家にて荷を売り、船員達は北風家にて泊りたりするのだった。

□ お菓子ずいそう1

ケーキデコレーション

メイブル・エリオン



北野町の自宅でメイブル・エリオンさん

一番古いお菓子屋さんで覚えているのはトアロードにあったドイツ人のお店。余り小さかったので、名前もよく覚えていませんが、何でも「ドッツ・ブラット」とかいふ人でしたが、このバターケーキは特別味が良かった。その後やはりドイツの方が継いで「ハーフシュール」という店を開きました。このエクレーヤはおいしかったし安かったですねえ。一つ食べたからお腹がいっぱいになりました。今の坂田シルバーストアのあたりにあった「アメリカン・ベーカーリー」のビスケットはバターがとてゝ沢山使っており風味豊かでした。「神仙閣」の向いを下った所には「セントラル・ベーカーリー」もありました。これらはみな第一次大戦前のことですから古い話ですね。

「フロインドリープ」も第一次大戦後です。今の御主人の父は戦争で捕虜になった方ですが、日本人の奥さんとお店を始めました。このケーキもパンも美味しく特に黒パンは大好きです。

コスモポリタンは、昔はモロゾフといい、古くよりトアロード（中山手通）に店があり、チョコレートや、ほしぶどうを売っていてよく買いに行きました。

ユーハイムのお菓子もとても美味しくてよかったですね。日本のお菓子屋さんでは、元町の風月堂だけでした。キャンディや、むしろ菓子やマロングラッセを置いていました。フランスの赤ちゃんを形どった小さなさとう菓子みたいなのがあってかわとおいしい味が広がったものです。戦後、元町にお住いの方から頂いた「元町ケーキ」がとても味がいいので、パイの材料をうすくしてクリームをはさんで積み上げ、上を生クリームで飾った「シルフォーイ」というケーキをオーダーしてつくってもらっています。昔屋のお友だちにあげたら喜ばれ、以来「エリオンさんのお菓子」といってオーダーする人も多いそうです。

私もブラザー（弟）のなくなる前は、よくケーキをつくりました。ブランドイヤーレズン、アーモンドをメリケン粉が感じられないくらいいっぱい入れてクリスマスケーキをつくります。「お宅のケーキはおいしい、カヤクばかりやねえ」といわれたもので、（弟）も喜んで食べてくれました。弟はケーキデコレーションが自慢で、毎年、ひそかに新しい図案を考えては手の中まっ白にして飾り、とても上手でした。亡くなった年も、またそのあくる年も、クリスマスになると、ケーキをつくらうと思いがちですが、弟のことを思い出してしまっただけ、材料もケーキも眠ったままなのです（談）

□お菓子ずいそ、う2

真夜中の英国風ケーキ エスター・フク・ニュートン

主人は英国人でしたから、パイの味にはうるさくて、私もいろいろこしらえました。主人が病気になってからは戦争中でも、ケーキづくりをしました。夜中でないとガスが出ないので、午前四時から五時ごろ起きて、一生懸命つくったものです。店のお客様からもよくケーキのつくり方を教えてくれといわれましたが、もう主人が亡くなってから二十七年にもなりますから大分忘れてしまいましたよ。

神戸のお菓子屋さんでは、ユーハイムさんと戦前からおつきあい、個人的にも親しかったし、ユーハイムさんもうちの店で洋服を仕立てていらっしやいました。生田署前にお店があり、奥さんが一生懸命サービスして、とてもよく働いていらっしやいました。板張りの床をドスドス音を立てて入り、注文すると、ご主人が並べたケーキをパツと切ってくれるのです。ミートパイや生クリームをたっぷり使ったクリームホーンもとてもおい



“エスターニュートン”店内でニュートン夫人

しかった。baumクーヘンは主人も大好きでしたし、今でも一番おいしいですね。息子さんが戦死されて本当にかわいそうでした。

前は何でもユーハイムでしたが、今パンとチョコレートは「フロインドリープ」黒パンはとくに良いですね。チョコレートは「フロインドリープ」だけ。

この頃はちよつとひかえています、ハンドバッグの中にはいつもチョコレートをに入れていました。旅行に行くときは、いろいろとりそろえてお友だちと一緒にいつもチョコレートを食べていました。お店でも三代続いてのお客さんが多いので、お孫さんがいらっしやると店の者が「フロインドリープ」まで走って、チョコレートをプレゼントしたり、家にも欠かしたことがありません。

戦後は「コロヤス」のケーキをよく注文しました。ご主人の頃安さんはダララインにつとめて腕を磨いた方でグループでパーティやゴルフ、ダンスクラブへ行ったりする友だちでした。今は二代目の息子さんがやっておられますが、四、五年前までは、関西中の店のお客様に「コロヤス」のクリスマス・ケーキをオーダーしてお贈りしていました。バターケーキがおいしいおいしいと評判よかったです。

今は神戸のお菓子屋さんもマスプロ的になりつつありますね。将来歴史をつくっていく上で、神戸でなかったら、その店でなかったらという本当の老舗になるよう、神戸の洋菓子のイメージづくりをしてほしいと思いますね。

(談) オートクチュール「エスターニュートン」店主

花と能装束の出会い

□いんたびゅう□小原豊雲氏を訪ねて



びと愁いがあらわれています。

四月は「羽衣」。松にかかる羽衣と、天に昇って行く天女の姿が抽象的に壁面を。フィリッピンからとり寄せたハスの花が、王冠に美しく咲いて清雅。

五月は「石橋」。豪華けんらんな獅子の舞いを、赤頭と白頭に華麗な衣裳。薬師寺の花会式の牡丹の花が厳に咲きみだれて、激しく燃えて自然にあそぶ獅子の姿がダイナミックです。

その他にも「隈田川」では狂女の母の心を柳と野の花で能衣裳の渋さに対し、「芭蕉」は、芭蕉の葉と夏草で旅行く俳人のひょうひょうとした雰囲気、また「修羅」「絶域の舞」は、西洋の騎士のよろいやジャワの仮面を扱って、東と西の混沌とした妖しさに遊びに心が楽しく拝見できました。

他にも、日本いけばな芸術協会々長細川護貞氏の好意によって、細川家伝来の能面や衣裳が出版されていますが、桃山時代の城主が、いかに一流の文化人であったかがしのばれる興味深いもの。

昨年はインドのタンタラアートの世界にいどみ、今回は日本の「能」に対決した小原氏は、「昨年のタントラアートより、能と花の世界の方が全般的に受けましてね。ことに若い人が、今回は興味深く観てくれています、

奈良のお水取りが終ると、ほのやかな春のときめきを感じ、さくらの花のほころぶ姿が何となくまぶたに浮んできます。四季のうつりかわりや、自然の美しさを深くみつめて、純粹な心に結晶させた日本の古典芸術や芸能。この欧米の芸術にはない独自の表現方法は、自然を客観的に見るのではなく、自然にとけこみ、いとおしむところから生れる、対象と作者が一つになって表現がなされていることです。

二月二十二日から一週間。大阪高島屋で神戸在住の小原流家元小原豊雲氏が「花と能装束」の出会いを「幽玄」のテーマで花展を開かれ、伝統芸術の精神性を追求した力感のある作品の数々が飾られて反響を呼びました。

一月は「高砂」。松羽目は生きた松、翁の面に衣裳、そして橋懸りには舞台開きに生ける吊り花が薔薇（しゅう）で。福寿草、わらび、椿も小さくお目出度く生けてあり、神聖な緊張感がさすがしいのです。

二月は「簾」。古木の梅に生田神社からの矢羽根。平太の面に若武者敦盛の衣裳。そして黄色い菜種の花といぬぶぐりが生田の森の素朴な叙情を漂わせています。

三月は「熊野」。立ちいでて峰の雲、花やあらん初桜の祇園林下河原、と牛車に咲きこむ吉野桜、その中に熊野の面。本願寺伝来の塗の茶弁当もそえられて熊野の歎

ひじょうに嬉しかったです。

能と花の出合いで、私がいちばん感じたことは、どちらもその終局は同じ境地だということ。むろん昔は、茶・花・能が三位一体となっていたので時の人の心の表現としていずれをとっても同じことであったのが、表現方法が巧緻になって、細分化され、専門化が進んだ結果一見すると異なる分野のようですが、その元には日本独自の精神性をみることができますね。

能の世界では「花伝書」や「花鏡」という奥義を伝える本に「花」の字がついています。夾雑物をとりのぞき、昇華した精神の高みを「花」といい、真実の美しさを「花」としているのはたいへん面白いことでした。ま



上は能衣裳と生花がとけあった会場。下は「贈」の見事な梅の前で家元小原豊雲氏

た「幽玄」とは、もの静かな無限的境地をいうようですが、底にある豪華で激しく、強くきびしいものをふんまえていることを忘れてはいけません。

能と花の出合い。一期一会が、日本的なものをつかんでいくうえに非常にありがたかった。いろいろ深く考えて、いささかノイローゼになるぐらいでした笑。それにしても幸せだと思ふのは、こういった出合いを花の世界で実行できたという喜びですね」と語られました。

日本の古典芸術の精神性に、あえて堂々と正面きつて対話をかわしあった小原氏のエネルギー。この勇氣こそ現代にいちばん必須なものではないでしょうか。



イースターの夜に
花の帽子ゆれて
すき透るひかりの春



マキシンの帽子のおもとは
全国有名百貨店でどうぞ

婦人帽子

マキシン

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL(078)331-6711-3 TEL (03) 535-5041

たくましい子を祝う
端午の節句に
カメヤの五月人形を



五月人形

おもちゃの



カメヤ

三宮方面でのお買物は……

さんちか店 ファミリータウン 391-4045

三宮店 センター街 331-4969

元町方面でのお買物は……

元町店 元町通3丁目山側 331-0090

パンプウ店 元町通1丁目不二家前 391-0768

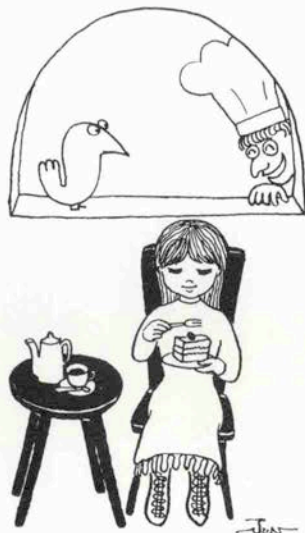
☆洋菓子特集〈1〉座談会

オリジナルな菓子作り

バレンタイン・F・モロゾフ 〈コスモポリタン製菓社長〉

吉川 進 〈風月堂社長〉

河本春男 〈ユーハイム社長〉



★神戸とともに育った洋菓子

吉川 私どもは、創業が明治三十年十二月十二日、場所も現在やっております同じ、元町三丁目なんです。私の祖父が、元町二丁目にありました市田写真館の創始者につきかり傾倒していきまして、その勧めもあって父が県立商業を終えたのを機に、東京の鍋町風月堂へ修行に行かせたわけです。ここで父は、市田氏の助言により、洋菓子を修行いたしまして、本店の大住さんから暖簾をわけていただきました。そして神戸で開店するにあたって、市田さんの紹介による棟梁に頼みまして、当時としては非常にモダンな、まるで銀行のような、とても菓子屋とは思えないような建物でした。これは戦災のため昭和二十年六月五日に焼失しました。

当時の製品なんです、現在よりもバラエティに富ん

でいまして、フランス菓子を中心にして多くあったようです。例をあげますと、ガトー、パイ、シュークリーム、エクレア、それにクッキー、ビスケット類、キャンデーではマデパン、バタースコッチ、スガなどもありました。古い方ならチョコレートキャラメルをご存知かも知れませんが、ゴーフルはもう少し遅れるのですが、マロングラッセは初めから作っていました。

河本 日独戦争で捕虜になりましたカール・ユーハイムが、日本へ来て銀座尾張町にありました明治屋さんの「カフェー ユーロッパ」の菓子部で職人として働くようになったのです。一方、エリーゼ夫人は五年程遅れて日本へやってまいりまして、そこのお手伝いをするという形で、日本での仕事を始めたのです。が、二、三年する内に、エリーゼ夫人は自分の頭文字のEをとり、「E・ユーハイム」という名の店を横浜に作りました。ところが大正十二年の震災で店が壊れてしまっただけで着のみ着のまま避難船に乗って、着いたところが神戸だったのです。そこで二人は店の名前も「ユーハイムス」として開店し、その年のクリスマスにはもうお菓子を徹夜で作って売ったといいます。神戸での仕事はこういう状態で始まったのですが、今度の戦争で全部焼けてしまい、更に強制送還を受けていますから一度は全く無くなってしまった時があるんですね。それで、戦後、再び復活してやってい



バレンタイン・F・モロゾフさん

るのですが、エリーゼ夫人にいわせますと、「転ばない者は強くない。」といひます。

震災後は、カールさんが主となってやっていたのです。第二次大戦の終る前日に亡くなられたのです。だから、戦後の中心はエリーゼ夫人なのです。そんなことから、横浜時代から戦後まで、エリーゼ夫人のユーハイムといえますけれども、カールさんが菓子職人として非常に立派な腕を持っていたということがユーハイム発展の一番の原動力だったと思います。まあ、ユーハイムの歴史を考えてみるとここまで来るのには色々苦労があった、それが支えとなっていると思いますね。

バレンタイン・モロゾフ 私で二代目になるのですが、日本に来たのは一九二四年頃でアメリカから来ました。それまではロシア、それから父が政府の仕事で満州へ行っていたのですが、革命が起きたのでアメリカへ行ったのです。そしてシアトルでロシアのユダヤ人が経営するチョコレート工場で働き始めたのです。もともと父の妹がロ

の頃から、私は手伝い始めました。チョコレートもみんな手づくりでした。それで皆さん方とも競争があったわけですが、ケーキはユーハイムさん、チョコレートは私どもということでした……。最初の頃はチョコレートを売っているのは、三軒位でしたよ。

その頃から、父は出来上ったものを、日本の人に勧めていたのですが、皆さん、甘くないとおっしゃるんです。つまり甘い程いいと思っていられずしやるんですね。ところが甘いもの程、安いんですよ（笑）。甘くないものの方が高くつく。まあ、こんなことも昔の話で、今はもう違います。日本人は本当にわかってます。

河本 物が豊富になってくれば、味の薄いものを求められますね。味が薄いからこそ、素材の良さがわかるのですね。そんなことから、私どもで一番困ったのは、バターの使い方です。フレッシュバターだけでやって居りますので、バターの味がそのまま菓子の味です。昔、バターなんて知らない人の方が多かった時には、に

シアで高級チョコレートを作っていましたが、全く関係が無いわけでもなかったのですが、とにかく初めてチョコレートをやるうということになりました。そこで友人の勧めもあり日本でやってみてはどうかというので、一九二六年に神戸で始めたのです。トア・ロイドで、外人相手にやっていたのですが、神戸はコスモポリタンということとで、ロシアチョコレートの味を種々にアレンジしたり、その他の色々なお菓子も作ったりしたのです。こ

おいが鼻につくなどといわれて苦労したと申していません。

吉川 大正の頃には、日本ではいいバターが無くて、全部オーストラリアから輸入していました。なんといっても洋菓子のもとには、メリケン粉とバターですからね。

★トップレベルの神戸の洋菓子

編集部 初期から今まで、ずいぶんご苦労されたと思いますが、お客様について、なにかエピソードがありましたら……。

吉川 大正時代にまだ喫茶店というのが無かった頃、ウチの二階で夏の間だけですが、アイスクリームを食べてもらっていたことがあります。これは今もやっていますが、ウエハスではさんだアイスクリームなんです、それにダイアモンドレモンといって、今のサイダー、そんなものを出していました。で、ストロベリーのアイスクリー

ムがありまして、これは、私もいちごジャムを作っていましたので、そのプロセスで得られるエッセンスからシロップを作って使っていたのです。それを当時の川崎造船所の松方社長さんが、中山手から馬車で出勤する途中によく食べに来て下さったということです。

河本 私どもの場合は、東京のヨーロッパの時代からそうなんです、文化人が非常に愛好したといえます。もちろん、当時は値段が高かったということもあるのですけれど……。そんなことから小説などにもよく書かれたり、文化人の方が宣伝してくださるということもありました。「細雪」にも出てまいります。そういうわけで色々な方が来て下さいますし、二代目のお客様もいらつしやいます。

バレンタイン・モロゾフ 私の方でも、二代目、三代目のお客様がいらつしやいます。東京の店へいらつしやった方が、親が神戸でよく買っていたなんておっしゃいますしね。

それから、神戸の人は味覚が発達しているの、むしろかしこい。それだけに、神戸のお客様がアクセプトしたら、これはもう大丈夫です。

しかし、神戸のお菓子は、もうどこへ出しても恥ずかしくありませんよ。

吉川 進さん 吉川 国際港都ということだね、外人との接触も多いしコスモポリタンさんも、ユーハイムさんも、神戸の港が一つの縁で発展して来られたということもありますね。

それに、源平の昔という



★スペシャルティのある
洋菓子づくりを

編集部 では、洋菓子界の最近の傾向とか、その将来についてはどうでしょうか。

河本 最近の傾向としては、軽いものが好まれていきます。これは味の面、見た感じ双方で軽いということ。それから、やはりフーリング時代ということ、何か、かつこのいい、ファッショ的なお菓子が爆発的に売れるということ



河本春男さん

があります。これからの一つの傾向としては、酸味のあるものが主流になっていくような気がしています。これには、材料を厳選しなければなりません、植物の方面とか、発酵乳のようなものの酸味のうまさ、一つの傾向となると思います。私どもで、サワーチェリーといいまして、チェリーを砂糖で漬けて発酵させたものですが、これを使ったものが非常に伸びて来ている。それから、これは私どもの伝統ですが、素材の持っている味を素直に出そうというのがねらいですので、あまり濃い味づけはしないのです。こういう傾向は、私どもだけでなく一般的に主流となっているようです。

吉川 ものによつては甘味ということも大事であろうと思いますが、総体的には、重いものより軽いものになっていくと思います。しかし、なんといっても食べ物です

ので電気製品みたいに、新しい発明発見が急に出来るわけでもない、それに、日本人の味覚に合うようなものを紹介するといった方向でいくこととなります。更に

こともありますが、なんといっても神戸は新しい、維新以後に発展したということもあって堅苦しい雰囲気もないので、これは食品工業に限りませんが、新しいものが発展しやすいのではないのでしょうか。六大都市の中では、この方面では恵まれていると思います。それになんといつても人材が集まったということでしょう。これは神戸にとって幸いなことでしょう。さらに神戸の洋菓子が神戸にのみ止まらず、日本国中へ出ていつているということも見がせませんね。神戸にとって洋菓子は重要産業であるということが出来ますね。神戸の経済にとって、非常に貢献していると思いますよ。

河本 やはり、神戸に外人が多かったこと、神戸が明るくて環境のいい街であることなどが洋菓子の発展に大変良かったのだと思いますね。

それに、服装でもそうですが、神戸の人はセンスが良くということがあります。なんといつても消費者の声というのはいきなりですからね。

販売規模と商品の日持ちという点でのかねあいにもむずかしい問題があると思います。

バレンタイン・モロゾフ 私も色々と楽しい製品を作るのが好きでやっているのですが……。これはどこでも同じことなのですが、スタンダードな製品があるわけですよ。例えばガトーならガトー。それにパイ、これは少しでも変えると、全く別の製品になってしまいます。ですからフィリングという点では自分の創造で変えられるのです。しかし、全然新しいお菓子が作れないとはいえないと思います。材料の変遷とか冷凍船といった運搬手段の進歩によっても新製品のあらわれる可能性はあると思います。

それに戦後すぐは、作ればなんでも売れたという時代ですが、これからはそうはいかない。お客さまが一番良く知っていらっしやいますからね。これからはきびしいと思います。競争も激しくなるとは思います。それはお互いのためにも、またお客さんのためにもいいことだと思います。

河本 私ども、社内で申しますことは、菓子屋ではだめだ、健康食品メーカーでなければ、というんです。つまり、ユーザーの希望に常に応じられる態勢になければ、と言うのです。例えば、離乳食になる菓子、体を作る菓子、食べる楽しみを満足させる菓子、そんなふうに色々考えられますね、そこからオリジナルな菓子が出てくるのだと思いますよ。

バレンタイン・モロゾフ スペシャルティのある菓子ということですね。

河本 それが課題となるでしょうね。

吉川 たしかに、それは研究していかなければならないことだと思います。

河本 洋菓子界のこれからということですけど、正直いいまして今までの段階は模倣です。が、これではだめです。で、洋菓子の本質を各自が真剣に考えて、ユーザーの求めに応じられるものをそれぞれが創り出すことに

よって消費者の共感を得ていくようにしないと、今の状態では競争だけして、結果的には共倒れにはしないかと心配です。

吉川 やはり、自分で開拓するということが大事ですね。ひとつ当るとすぐに模倣するということがあるの、これはやはり改めなければならぬですね。

河本 それから、原料の問題があります。職人が変化してきたということもあって、やや半製品の原料が多くなって来っていますが、これはやはり考えなければならぬことだと思います。純粋な原料をうまく使って、いいお菓子を作るという方向へ持っていかなければ、それで技術の習得ということなのですが、これだけは、自分で発見する以外にありませんね。

バレンタイン・モロゾフ ベーキングはある程度、教えることもできますが、スペシャルティということはむずかしいですね。それに、好きにならないとだめです、この仕事はね。

吉川 加工食品だから原料は大事ですね。粉にしる、卵にしる、砂糖にしる、規格品みたいになって種類が減っているのではないかと思うんです。根本は原料ですからね。

バレンタイン・モロゾフ 純粋なものを使うというのは大事ですね。

河本 半製品のなもので、安易な方向へ流れていると、外国からどんどん良いものが入ってきた時に困ると思うのですよ。勉強が大事ということですね。

バレンタイン・モロゾフ 外国へ行って、店を写して、それとそっくりのものを作ってもだめなんです。

またそんな人ほど、研究したとか、どこと提携したとか言いたがるんですね、プロフェッショナルということが一番大事ですよ。

吉川 神戸市の財政を菓子屋が支えているというくらいのがまえて持って、よりおいしい洋菓子作りに努力していききたいものです。 〆オリエンタルホテルにて〃

神戸J.C.（青年会議所、西正興理事長）はこのほどアジア会議誘致実行委員会を開き、「設立十五周年記念事業」として来年度のJ.C.A

ジア会議の開催地に神戸が立候補する」ことを正式に決め、近く国際JC事務局に申し込むことになった。

開催地決定は、この四月六・九日に香港で催される七十二年度アジア会議の最終日に各国の投票で確定するが、神戸に決まれば日本で開かれるのは五十九年の大阪、七十年の福岡に続いて三度目。

JICAアジア会議はアジア・太平洋地域の二十五カ国のJICAメンバーが互いに日ごろの活動成果を報告し合い、新しい運動指針をさぐるため毎年一回、アジア各国を持ち回りで開催されているもの。

神戸JCでは「アジア問題が重要になっていること」

もあって、地域開発や指導

力開発、さらには青少年運動などをテーマに、アジア各国の青年同士の情報交換と交流の場として、ぜひ誘致したい」といっている。

★甲南大学新学長に
鈴木正治教授が就任
甲南大学の第四代目の学
長（公選の学長としては三
代目）に、鈴木正治教授が
就任した。



鈴木正治教授

鈴木氏は以前河北新報社での記者生活の経験もあり「豪放な方ですから、学長にはびったり」というのが学内の評判。

「甲南大学50年の伝統に基づいて、若い人たちが四年間、生きがいを感じながら生き生きと勉強できるように」

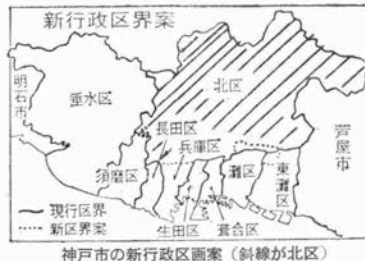
北野町を一人歩いていると、異人館の角でおじいさんがハーモニカを吹いていた。そしておじいさんはこっちを向いて「犬が空を飛んでるよ、／＼」といってからかってみせた。
彼女の頭はメルヘンの世界……。

東二見在住

芦屋芸術学院卒

が、このほどそれが「北区」と決まった。

行政区の再編成は、新し



★神戸市北神地区の新区名が「北区」に決定

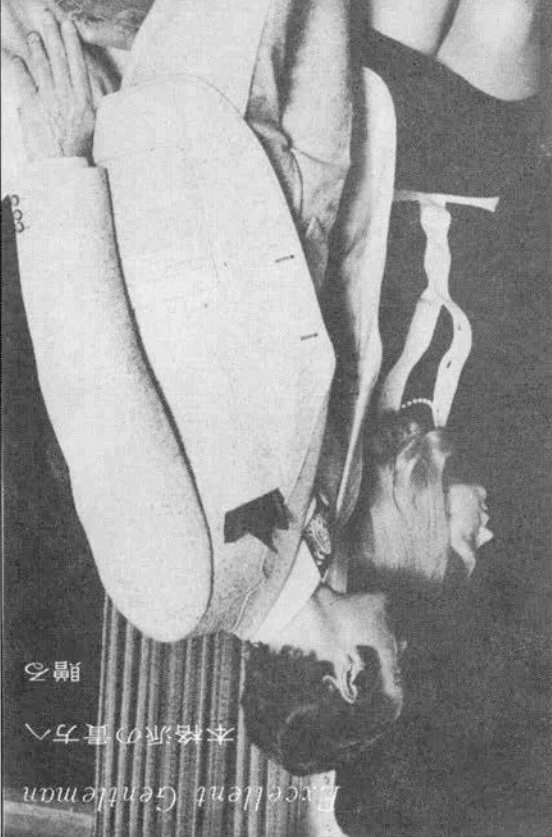
北八十二二年三月に神戸市
新北区は兵庫区・山田町以
と合併した区域で、有馬、
有野、八多、淡河、大沢、
長尾、道場の計八町。広さ
は約二百四十七平方^{メートル}で市
域の四六%を占める。人口
は約十万人。

また、北区の新庁舎は鈴
蘭台西町一丁目の神戸電鉄
鈴蘭台駅北約三百に七千
平方^{メートル}の用地を買収、七月
ごろ着工し、一年後に完成
させる。新庁舎は、鉄筋四
階建て、区役所のほか福祉
事務所、保健所を新設し、
公会堂も置く。新区は区庁
舎が完成する四十八年八月
ごろ、区界変更は四十七年
六月一日スタートの予定。

い住宅地の開発にともなう人口流動で行政のアンバランスが出てきたため、神戸市が四十五年から審議会をつくって検討していたもの。

Excellent Gentleman

本格派の貴方へ
贈る



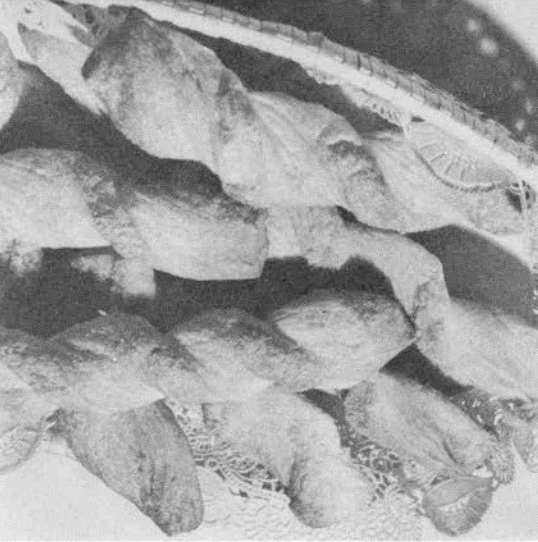

O-SHIBATA

柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸341-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪231-2106

デニッシュパイ

●風味豊かなパイのパン？
6コ入100エン

北欧の銘菓

ユー・ハイル・コフツェ

本社・工場・展示場 神戸市東灘区東灘1 (市立美術館東隣) TEL. 221-1164
三宮セントラル街本店 神戸三宮セントラル街 (洋菓子・喫茶・レストラン) TEL. 331-2421
さんちか店 神戸三宮地下駅イートアップ TEL. 391-3558

まいしょつぷ

店装のインテリアに
 かかせないもの
 キャッチ カラー！
 “しにせ”の風格を表現し
 店舗のイメージアップに
 つながる
 オレンジ色は「ヒロタ」の
 キャッチカラー



入船KK 設計・施工
 さんちかタウン洋菓子の「ヒロタ」

い 入船株式会社

企画・設計・施工のオールマイティ
 入船株式会社

神戸市灘区友田町 5-2-2
 TEL (078) 851-3191